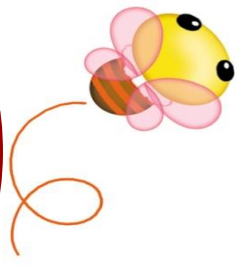


蜂刺されに注意しましょう



蜂刺症の現状及び種類は

日本で蜂刺症の対象となる蜂類としては、スズメバチ類16種、アシナガバチ類11種、ミツバチ類2種、マルハナバチ類14種が知られています。

ある総合病院の報告書によると、受診患者のピークは8月で、全体の約9割が**7月～9月に集中**しているとの報告があります。

アナフィラキシーショックとは

アナフィラキシーとは「**急激なアレルギー反応**」のことを言います。アナフィラキシーは、一般には刺されてから、15分以内に起こります。

ただし、ごく稀に刺されてから、翌日あるいは、遅いと10日程経ってから起こる事もあります。最初の抗体の侵入により体内で抗体が作られるため2回目3回目と急速に強い反応が起こります。

蜂刺されによる症状は

蜂に初めて刺された人は刺された部位に痛みを伴って発赤を生じる程度ですが、回を重ねるごとに発赤が強くなります。また、下記の症状のような「**アナフィラキシー**」とよばれる全身症状が生じます。

軽症度

吐き気、発汗、めまい、全身のじん麻疹、全身のふるえ など・・・

中等度

のどがつまった感じ、息が苦しい、のどが渴くのどがしびれるような感じ、腹痛、下痢、吐き気、嘔吐、頭痛、めまい、全身のむくみ、たんがからみ息を吸う時ぜいぜいする など・・・

重傷度

呼吸困難、血圧低下、意識が遠のく寸前、激しい動悸、息苦しい など・・・

更に重篤症状になると

口からアワ、手足のしびれ、唇の失血、脱力感、何も聞こえない、何も見えなくなる など・・・

蜂刺されによる処置は

毎年、蜂に刺されて亡くなったと新聞などのニュースに取り上げられます。蜂はミツバチのような小型から、スズメ蜂のような大型のものまで、そのほとんどが「毒」を持っています。刺されたからといって「かゆみ止」や「アンモニア」を塗っても何の効果もありません。余計、刺された傷口からばい菌が侵入してアレルギー反応を早めるだけです。

処置方法は

- ①患部を「水で洗う」。その際、患部をこすらない。
- ②指で患部をつまみ「毒を抜く」。口で吸い取っては絶対してはならない。毒が虫歯などに侵入する。吸引器具で吸い出すと安全。毒を抜く行為はあくまでも応急処置です。
- ③「アイスノン」や「氷」や「濡れタオル」などで冷やす。
- ④病院へ。症状に応じて救急車の要請。

